

イエスが宣教の根拠地としたのは、イエスは自分が育った町ナザレではなく、カファルナウムでした。この町はガリラヤ湖の北に位置する湖畔にあり、当時人口 5 万を数えた大都市でした。15 節に「異邦人のガリラヤ」と記されています。ガリラヤ地方は紀元前8世紀にアッシリアに征服されて以来バビロニア、ペルシア、マケドニア、ローマと、歴代の征服者に支配され続けた結果、異邦人の入植が後を絶たず、人種も宗教も混交状態となったため、ユダヤ教徒からは異邦人のガリラヤと軽蔑されていました。15~16 節はイザヤ 8 章 23 節b~9 章 1 節にいくぶん手を加えた引用です。イザヤは、アッシリアによって北イスラエル王国が占領され、その地に住む人々がアッシリアの様々な所に移住させられ、一方、この地にはアッシリア中からいろいろな人々が移り住むようになるという悲惨な出来事にもかかわらず神さまの救いが来ると預言したのです。著者は、当時メシア解釈を施されていた旧約聖書を暗示することにより、イエスがメシアであるとともに、イエスのガリラヤでの宣教が旧約聖書にあらかじめ定められたことであることをマタイの信仰共同体の読者に確信させるために旧約聖書を引用したと思われます。そして、それとともに、このようにして異邦人のガリラヤで始められたイエスの宣教は、やがてこの福音書の終わり 28 章 18~20 節に記されているように、異邦人、すなわちすべての人々に向けられた宣教を生み出すことになるということを読者に想起させることだったと思われます。

イエスの宣教の第一声は、「悔い改めよ。天の国は近づいた。」であったと記されています。同じ言葉は洗礼者ヨハネの記事にも記されています(3:1~2)。洗礼者ヨハネがユダヤの土地でその言葉を言ったのに対し、イエスはその言葉を異邦人も共存するガリラヤで言った、と記されています。この言葉は直訳すると、「回心せよ。天の国は近づいたから。」です。新共同訳には「近づいたから」の「から」が記されていません。しかし、これはとても大切なのです。回心することによって神の国に近づくのではないのです。「天の国は近づいた」とは、神さまの支配される世界がもうそこに来ている。イエスが来たことによって、そのことははっきりしている。だからイエスは「回心せよ」と言った、と記すのです。イエスが話したこと、イエスが行った様々な奇跡は、すべてこの神の国がもう来ていることを示すものでした。私たちがイエスと共にあること、イエスの救いに与ることによって、既に神の国に生き始めているのです。